

医学教育分野別評価
琉球大学医学部医学科
年次報告書
2023 年度

評価受審年度 2017（平成29）年

令和5年9月

琉球大学医学部



評価受審年度 2017（平成29）年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 11

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34

はじめに

本学医学部医学科は、2017 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018 年 11 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 35 を踏まえ、2023 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日を対象としている。

医学教育分野別評価 琉球大学医学部医学科 年次報告書 令和5年度

評価受審年度 2017（平成29）年

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.2 大学の自立性および学部の自由度
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・導入が計画されている「沖縄特色科目」の確実な履行が期待される。	
現在の状況	
・3年次学生に対して「沖縄特色科目」を継続して実施している。	
今後の計画	
・医学科教務委員会とカリキュラム作成専門部会で時代の変化に合わせて、内容の変更について検討を継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料1.2.1：シラバス（沖縄特色科目）	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・学修成果を教員、学生に十分に周知すべきである。	
現在の状況	
・入試説明会、入学オリエンテーション、授業などあらゆる機会を捉えて周知を図る努力を続けている。	
・医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に伴い学修成果を改定し、医学科運営会議にて承認された。また、会議の構成員などへ周知を徹底した。	
今後の計画	
・教務委員長を中心として学修成果理解のため実施したFDを、オンラインで視聴できるように準備を進めている。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料1.3.1：FD資料「医学科における教育について」	
・資料1.3.2：令和5年度第3回医学科運営会議議事要旨	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 卒前と卒後の学修成果の関連をより明確にすることが望まれる。	
現在の状況	
・ 関連性に関する検討は進んでいない。	
今後の計画	
・ 卒後の臨床研修に関する学修成果との関連について、キャリア教育センター、医学教育企画室及び医学科教務委員会の緊密な連携を計画している。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 卒業時コンピテンスの策定には、学生、職員など、教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。	
現在の状況	
・ 医学科医学教育評価委員会、医学教育分野別評価対策委員会に学生が参画する規程を作成し、既に学生は参画している。 ・ 2023 年 4 月 1 日時点で、使命の決定方法に関する検討は進んでいない。 ・ 学修成果は、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に合わせて改定した。その際、医学科医学教育分野別評価対策委員会において、学生参画のものと審議がなされ、承認された。	
今後の計画	
・ 使命ならびに学修成果の改定を行う仕組みを検討する。その際に、学生が参画する仕組みを構築する。 ・ 2023 年度内に、マイルストーンの検討を予定している。検討の際は、多くの学生が参画して行う予定であり、必要であれば学修成果についても言及する。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料1.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育分野別評価対策委員会議事要旨 ・ 資料1.4.2：令和5年度第1回医学科医学教育分野別評価対策委員会議事要旨	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・今後使命を改定する際には、他の医療職、患者代表者など、広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが望まれる。	
現在の状況	
・使命及び学修成果の改定を行う仕組みを構築する段階である。	
今後の計画	
・改定する委員会のメンバーに誰を入れるべきか検討を開始する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・卒業時コンピテンス・コンピテンシーを各科目の教育に十分に反映させるべきである。	
現在の状況	
・各科目で達成される学修成果を表にまとめてマトリックス表を作成した。 ・すべてのコンピテンスが組み込まれていることは確認した。	
今後の計画	
・マイルストーンの作成及びコンピテンシーとの関連付けは、今後議論を始める予定である。 ・2023年度内に学生、教員を交えてマイルストーンを作成する予定である。 ・学生評価と相まって、コンピテンシーの十分に落とし込まれているか検討する予定である。 ・基礎医学、臨床実習において身に着けるべき態度・技能を洗い出し、どの学年で、そしてどの実習で学ぶか検討する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料2.1.1：科目・コンピテンシー対応表	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・臨床で活用するための体系的な EBM 教育の強化を図るべきである。	
現在の状況	
・EBM に関する教育を行っている科目の掌握を進めている。	
今後の計画	
・必要となる EBM に対する基礎的概念の教育及び実践をどのように組み入れるか検討を始める予定である。	
・臨床実習の場での EBM 教育に注力するよう FD、会議などを通じて周知する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・行動科学の体系的なカリキュラムを整備すべきである。	
現在の状況	
・精神医学、内科学、生理学、解剖学など複数の講座において、行動科学の講義を分担実施している。全体の統轄は、精神医学の教員が行い、座学において基本的知識を習得し、TBL などアクティブラーニングを活用して実施している。	
今後の計画	
・授業アンケートなどを実施し、学修成果が得られているかを検討する。	
・行動科学を意識した講義内容を取り入れる予定である。	
・臨床実習において、行動科学の実践として禁煙外来、断酒外来での実習を取り入れるよう調整中である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料2.4.1：シラバス（行動科学）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを定義し、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを検討することが望まれる。	
現在の状況	
・教員を中心に取り入れ、改定しているのが現状である。 ・各科目単位（社会医学の項目）で取り組んでいる内容について情報収集している。	
今後の計画	
・行動科学に限らず、将来必要になると考えられる事項を検討する仕組みの構築を急いでいる。 ・医学教育企画室の会議で、内容の変革について話し合いを開始している。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・すべての学生が、健康増進と予防医学を実際に体験できるようにすべきである。	
現在の状況	
・カリキュラム見直しの中で、体験できるプログラムをどれに設定するか検討している。 ・沖縄県との交渉により、保健所での実習内容について検討している。	
今後の計画	
・地域医療研究会、地域枠学生の活動などでの地域住民（特に離島）の健康増進・予防医学の体験を企画している。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・垂直的統合科目を開講する上での問題点を議論して、垂直的統合科目を拡充することが望まれる。	
現在の状況	
・多くの科目で垂直的統合が実施されている。 ・各科目で統合の取り組みが行われている。現在、水平的統合と合わせて各科目の全体像の掌握を進めている。	
今後の計画	
・今後、カリキュラム全体の統一性が取られているか検討する予定である。 ・収集したデータを解析して、今後統合を進めるべきか検討する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料2.6.1：シラバス（TBL（team-based-learning）4年次前期）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員として、学生の代表を含めるべきである。	
現在の状況	
・医学科医学教育評価委員会、医学科医学教育分野別評価対策委員会に学生が参画している。 ・現在、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ医学科教務委員会への学生の参画方法について検討している。なお、当該委員会への出席に関して、カリキュラム等の教育プログラムに深く関係する事項を審議する場合のみに出席させる方針で検討している。	
今後の計画	
・教務委員会、医学科・医学研究科学生生活委員会への学生の参画を含めて検討する。 ・2023年度中には正式決定し、構成員となった学生を含めて医学科教務委員会を開催する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料2.7.1：琉球大学医学部医学科医学教育評価委員会要項 ・資料2.7.2：琉球大学医学部医学科医学教育分野別評価対策委員会規程 ・資料2.7.3：令和5年度第1回医学科教務委員会議事要旨 ・資料2.7.4：令和5年度第4回医学科教務委員会議事要旨	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。	
現在の状況	
・入れる方向で調整しているが、現状、目途が立っていない。	
今後の計画	
・教育の関係者の代表の人選を急いでいる。 ・広い教育の関係者を交えた会議を開催する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・知識、技能、態度の領域に合致した評価を学修段階に応じて系統的に実施すべきである。 ・臨床実習現場においてさまざまな評価を確実に実施すべきである。 ・学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。 ・疑義申し立てについて、医学部として組織的な対応の仕組みを構築すべきである。	
現在の状況	
・臨床実習においては、全ての評価に態度・技能の項目を入れている。 ・基礎科目においては、実習中、レポートを態度・技能の評価に加味することで、共通理解は得られた。評価の割合に関しては現在検討中である。 ・卒業時まで達成すべき技能に関して、臨床医学分野ではほぼ絞りこめた。CC-EPOCなどを活用して達成度評価が可能かどうかを検討中である。 ・基礎医学の中で学ぶべき臨床医学に必要とされる技能については、現在検討中で、学生カルテなどを用いて評価に活用する予定である。 ・疑義申し立てに関しては、既に規則に盛り込まれており、各科目単位で適切に対応するシステムが稼働している。	
今後の計画	
・学生カルテを導入し、低学年からの態度・技能の評価を個人単位で細かく出来るようなシステム作りを検討し、システム導入に向けて全学レベルでの話し合いを始めている。 ・mini-CEXなどの多面的評価をどの程度導入出来るか検討中である。 ・技能評価に関して、その経験、スキルレベルについて調査する方法を検討して	

いる。 ・学生カルテなど、態度面の評価を併せて検討している。
現在の状況を示す根拠資料
・資料3.1.1：指導医による学生評価票

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・評価の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。 ・基礎医学での各科目の評価方法、合格基準を統括的に検証、評価し、改善する仕組みを構築することが望まれる。 ・外部評価者を活用することが望まれる。	
現在の状況	
・基礎系の科目においては、多くは統合科目であり、互いに試験問題は公開している。しかし、妥当性の検証は十分には行われていない。 ・総合試験Ⅰ～Ⅲに関しては、ブラッシュアップを行い、信頼性・妥当性の検証を行っている。 ・臨床実習後 OSCE には、外部委員が加わっている。 ・学外実習期間にあつては、学外の教員が評価を行っており、最終評価においては、学内教員の評価と比較検討され、総合的な学生評価を行う仕組みが構築されている。 ・一部の科目では、信頼性、妥当性が検討されている。 ・全学の対応として、試験の妥当性については検証している。	
今後の計画	
・特に、座学の評価にあたって、評価の妥当性について、系統的に行われる仕組みの構築を検討する。 ・そのほかの科目における外部評価者導入は今後検討する。 ・真の妥当性の検証は、2 巡目の分野別評価以降の 7 年間の課題となる	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料3.1.2：共用試験臨床実習後OSCE評価表	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・コンピテンシーの各項目に関連づけて科目での到達レベルを設定し、目的とする。学修成果の達成を保証する評価について検討し実践すべきである。 ・評価のフィードバックを確実にを行い、学生の学修を促進すべきである。 ・低学年から臨床実習に至る過程において、学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。	
現在の状況	
・コンピテンシーと各科目との対応表（マトリックス表）の作成は終了している。 ・臨床実習においては、診療科毎にフィードバックを行っている。 ・基礎医学の科目においては、中間試験を行って形成的評価と共に、フィードバックを行っている。 ・臨床実習の開始前及び臨床実習前半の終了後に総合的なフィードバックを行っている。 ・学生カルテの準備を進めている。	
今後の計画	
・実効性のあるマイルストーンとコンピテンシーとマイルストーンの関連付けを検討する方向で調整している。 ・基礎系科目でのフィードバックを進める体制を構築する。 ・2023 年度より、測定が困難な項目であるプロフェッショナリズムなどに関しては、外部委託試験（PROG）を導入している。この評価を卒業判定などに活用するかについては、今後議論を重ねていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料3.2.1：PROG全体集計報告書（2023年度医学科1・2・3・4年生）（表紙）	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・形成的評価を繰り返し行い、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。	
現在の状況	
・基礎科目の一部に置いては、中間試験やミニテストを行い、理解が進んでいない学生にはフィードバックを繰り返している。 ・臨床実習においては、実習単位ごとにフィードバックを行っている。 ・総合試験の成績不良者は面談を行って、指導している。 ・どの科目で適切なフィードバック及び形成的評価が行われているか調査中である。	
今後の計画	
・形成的評価の実施状況を把握し、今後、基礎科目及び臨床実習における評価の在り方を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・カリキュラムとして、中高学年でのキャリアガイダンス教育の導入が望まれる。	
現在の状況	
・総合講義（M5）において、各分野の講師によるキャリアガイダンスが実施されている。 ・指導教員、臨床実習におけるキャリアガイダンスの実績を調査中である。	
今後の計画	
・キャリア教育の導入をどのようにカリキュラムに組み入れるか検討を始める予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料4.3.1：総合講義の日程表	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・今後、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項に関わる各種委員会に学生の参画を推進すべきである。	
現在の状況	
・医学科医学教育評価委員会、医学科医学教育分野別評価対策委員会、カリキュラム作成専門部会にメンバーとして参画している。	
今後の計画	
・医学科教務委員会については、領域 2.7 で記載した。 ・医学科・医学研究科学生生活委員会への参画は今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
- 資料1.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育分野別評価対策委員会議事要旨 - 資料4.4.1：令和3年度第1回医学科医学教育評価委員会議事要旨 - 資料4.4.2：令和3年度第1回カリキュラム作成専門部会議事要旨	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・教員がカリキュラムの全体像を十分に理解するための適切なシステムを確立すべきである。 ・カリキュラムの実施を確実にできるよう、教員それぞれのエフォート率を組織的に管理すべきである。	
現在の状況	
・2022 年度、琉球大学での医学教育の流れに関する FD をオンライン形式で実施し、受講率は約 50%であった。	
今後の計画	
・引き続き、学修成果、マイルストーン、コアカリキュラムなどに関する FD を企画し、オンライン形式での受講を計画している。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料1.3.1：FD資料「医学科における教育について」	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・学習環境を定期的・組織的に見直す体制を構築することが望まれる。	
現在の状況	
・授業アンケート、指導教員との面談、医学科医学教育評価委員会を通じて学生からの要望を取り入れている。 ・医学科・医学研究科学生生活委員会を中心に教育設備、教育資源の充実に関する話し合いが行われている。 ・指導教員による半年に1度の学生との交流（通称“班会”）における、学生からの聞き取り調査結果を全学的に収集している。科目に対応する内容については、各科目の教員で情報共有し、カリキュラム全体に関するものについては、医学科教務委員会、医学教育企画室会議で対応している。 ・2022年度より卒業生にアンケートを実施し、教育資源についての感想・要望を集めている。	
今後の計画	
・系統的に評価、要望を集約する仕組みを構築する予定である。 ・集めたデータをもとに、資源の充実化を図る予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料6.1.1：カリキュラムおよび学習環境に関するアンケートについて（令和4年度卒業生アンケート） ・資料6.1.2：令和5年度前学期学科別・年次別懇談会 学生からの要望一覧	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・学内外の教育専門家を活用し、すべての教職員の教育能力向上をさらに図ることが望まれる。	
現在の状況	
・全学のFDにおいて、教育活動に関するFDが開かれている。 ・医学教育に関する事項（琉球大学医学部の教育方針、医学教育の流れ、コアカリキュラムなど）に関するオンライン形式のFDを実施した。 ・週1回開催する、医学教育に関するコアミーティングを開催して、教育の関係者を活用し、方針を決定している。 その結果は、必要に応じて医学科教務委員会及び医学科・医学研究科学生生活委員会に諮っている。	
今後の計画	
・複数回のFDを企画して、教員の教育能力の向上を図る予定である。	

現在の状況を示す根拠資料
・資料6.5.1：令和4年度第2回医学科医学教育分野別評価対策委員会議事要旨

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・医学科医学教育評価委員会は、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応についての評価を早急に遂行すべきである。 ・医学科の教学 IR 機能を実働させ、評価システムの充実化を図るべきである。	
現在の状況	
・教学 IR に関しては、全学組織の理解を得ることが極めて困難な状況である。 ・2022 年度卒業生を対象としたコンピテンスの達成度の自己評価を行った。	
今後の計画	
・大学全体の取り組みとして、教学 IR の充実を強く要望を続ける。 ・CC-EPOC などを活用して、技能・態度評価のデータをもとに、カリキュラムの評価が行える体制を構築する方向で進めている。 ・教務情報システム、入試システムを用いて、個人情報情報を消去した形でプログラム評価を進める体制の構築を模索している。 ・今後、学生アンケートを毎年行う予定である。 ・2023 年度 1 年次～4 年次学生に外部委託試験（PROG）を行い、コンピテンスの達成度、学年による学生の進歩の調査並びに解析を行った。解析に関しては、現在対応中であり、教育プログラム改善につなげる予定である。 ・2023 年度、2022 年度のカリキュラムに関して、科目担当教員全員にアンケートを行い、時間数、講義内容、学修成果（コンピテンス）との関係並びに今後の改善点などを調査した。教員側の評価について、意見を集約中である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・資料3.2.1：PROG全体集計報告書（2023年度医学科1・2・3・4年生）（表紙） ・資料7.1.1：カリキュラムに関するアンケート集計（教員へのアンケート） ・資料7.1.2：令和2年度卒・琉球大学医学部医学科第35期生を対象とした、第115回医師国家試験に対するアンケート（卒業生アンケート）	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、プログラムを包括的に評価することが望まれる。	
現在の状況	
・卒業時の成績、卒後の成績、学生の進歩を活用できないかと模索している。	
今後の計画	
・大学全体の取り組みとして、教学 IR の充実を強く要望を続ける。 ・CC-EPOC などを活用して、技能・態度評価のデータをもとに、カリキュラムの評価が行える体制を構築する方向で進めている。 ・教務情報システム、入試システムを用いて、個人情報情報を消去した形でプログラム評価を進める体制の構築を模索している。 ＊7.1 に関しては、前項にまとめて記載した。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・系統的に教育プログラム評価のための学生・教員からフィードバックを収集し、分析・対応すべきである。	
現在の状況	
・学生からの授業アンケート結果はあるが、プログラムに関してそれを評価するシステムが実質的には稼働していない。 ・指導教員による半年に1度の通称“班会”での学生からの聞き取り調査結果を全学的に収集している。科目に対応する内容については、各科目の教員で情報共有し、カリキュラム全体に関するものについては、医学科教務委員会や医学教育企画室会議で対応している。	
今後の計画	
・卒業時にコンピテンスの達成状況に関してアンケートを実施し、プログラムに関するフィードバックを求める。 ・教員からのアンケート、患者、コメディカルなど 360 度評価を進める予定である。 ・学年末に学生からフィードバックを効率よく網羅的に求めるシステムを企画している。 ・科目担当教員へアンケートを実施し、教員からのフィードバックを 2023 年度より開始した。	

現在の状況を示す根拠資料
・資料6.1.2：令和5年度前学期学科別・年次別懇談会 学生からの要望一覧 ・資料7.1.2：カリキュラムに関するアンケート集計（教員へのアンケート）

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・教育プログラム評価のための教員や学生からのフィードバックをプログラム開発に活用する仕組みを構築することが望まれる。	
現在の状況	
・学生から提出されたアンケートにより、一部でカリキュラムの改定につなげているが、このシステムで十分とは判断していない。 ※前項 7.2 にまとめて記載した。	
今後の計画	
・アンケート、学生カルテなどから情報が集約されるようになったら、それを元にカリキュラム改定につながるシステムを構築する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・使命、学修成果、カリキュラム、および教育資源の観点から、学生と卒業生の実績に関するデータを収集し、分析すべきである。	
現在の状況	
・卒業時成績、留年率などは集積されている。 ・全学的取り組みの中で、卒業生への調査を行うことが決まっている。 ・卒業生の実績について、同窓会との間で協力関係は得られてる。しかしながら、その解析項目など、具体的な進展は無い。 ・学生の実績（成績等）について、解析方法を検討している。	
今後の計画	
・学生成績、国家試験結果などを活用して実績を評価する方法を模索中である。 ・学生実績（成績等）及び卒業生の実績について、今後どのような解析し、解析結果を教育プログラムに反映させるか検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・学生の実績に関するデータを収集し、その結果を学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、入試委員会、教育委員会等へフィードバックを確実に提供することが期待される。	
現在の状況	
・データの収集方法の検討中である。	
今後の計画	
・全学の教学 IR との連携を強め、実績に基づく改定・改善の方法を検討する予定である。 ・解析方法が確立していないため、フィードバック内容や改善は全く進展していない。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・医学科医学教育評価委員会が具体的に活動を行い、教育課程およびプログラムの評価結果を公開することが望まれる。 ・カリキュラムに対して他の関連する教育の関係者からフィードバックを求めることが望まれる。	
現在の状況	
・公開する情報を吟味できていない。 ・関連する教育の関係者からのフィードバックは受けられていない。 ・現状大きな変化は無い。	
今後の計画	
・公開して意味のある状態にしてから公開の予定である。 ・他の関連する教育の関係者からのフィードバックを受け取れる体制の構築が必要であると考えている。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄及び管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・統轄業務とその決定事項について、プロセスも含めた情報公開の一層の推進が望まれる。	
現在の状況	
・各教授が講座に持ち帰って報告している。 ・2022年4月1日現在、公開についての進展はない。	
今後の計画	
・医学研究科（医学部医学科）執行部を中心に教授会の決議事項（特に教務関係の決議事項）や重要事項の公開に関する取り組みを開始する。 ・今後、大学執行部、医学部（医学研究科）執行部との話し合いを進め、情報公開について早急に対応する必要がある。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	